

教育あがつま

No. 149

令和4年3月11日発行
吾妻教育事務所
吾妻郡町村教育委員会連絡協議会

パラリンピック競技をテレビ観戦して思うこと

東吾妻町教育委員会 教育長 山野 邦明

新型コロナウイルス蔓延により1年延期された東京2020パラリンピック競技大会が昨年8月に開催されましたが、障害種別に分けられた539種目の競技で熱戦が繰り広げられました。オリンピックとは異なり、同じ種目でも一人一人障害の状態が異なる選手達が同じ条件とは言えない中で、競技が開催されていました。どの種目でも個人が秘めている能力を最大限活用して競技に臨んでいた姿に大変感激しました。

群馬県教育振興基本計画の基本目標を具現化するための視点の一つに「生涯にわたる一人一人が持つ個性や能力を伸ばし、可能性を育むために、自ら学び、自ら考える力を育成する」があります。この視点は、機能を最大限に引き出せるように、より効果的なトレーニングを個人の努力及びチームの協力という集団の力で、金メダルを目指して競技力を鍛えてきたパラリンピアンたちの姿と重なるところが多くあります。

AIなど技術革新が一層進展する中で教育の在り方が問われておりますが、GIGAスクール構想の推進等、学校現場にはクリアしなければならない課題が山積しています。先生方には、個々の子供の秘めている能力を見つけ・引き出し・伸ばすためのご尽力に期待するところであります。これからの日本の社会の方向を決めるのは「教育」であります。多忙な中ではありますが、子供の成長を楽しめる教師であっていただきたいと思っております。



教育事務所の重点に対する各学校・園の取組のまとめ

【学校教育係】

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていた学校・園の一部の訪問は中止となりましたが、訪問を通して重点に対するアンケートの結果と気付いた点をまとめました。各学校・園の次年度の指導に生かしていただきたいと思っております。

ICT活用

○授業におけるICTの有効活用（アンケート結果：よくできた学校+少しできた学校=100%）

〈気付いた点〉 全ての学校で、カメラを用いた成長記録の作成や、文書作成ソフトを用いた共同編集など、教師も子ども1人1台端末を「まずは、使ってみる」実践をしていただきました。今後は、次の「確かな学力」の中でも書かせていただいておりますが、「主体的・対話的で深い学び」の中で、1人1台端末を効果的に活用する段階へと進めていただきますようお願いいたします。その際、ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意し、効果の検証と分析を適切に行ってください。セキュリティに関しては、規制を強めると学習面での利便性も損なわれます。制限ありきを良しと考えるのではなく、健康面を含めICTが子供に与える影響も職員間で共有し、学校の活用方針を明確にして保護者にも理解してもらうようお願いいたします。

○ICT化が可能な業務の検討・導入（アンケート結果：よくできた学校+少しできた学校=95.5%）

〈気付いた点〉 グループウェアを用いて打合せを電子化するなど、業務の効率化につながる実践が広がっています。例えば子供の欠席連絡は、メモが担任の机の上に置かれ→担任が確認・集約して職員室黒板に記入→日直が学校日誌へ転記と、記入作業の繰り返しが必要でした。今まで当然と思ってきた名もなき校務も、ICTを用いてミスと無駄を省くことで効率が良くなり、本来の業務に専念できるようになります。各学校で導入して利便性を感じられた取組については、ぜひ事務所の情報交換ルームに投稿してください。授業実践と合わせて好事例をたくさん共有して、管内でICTの効果的な活用が促進されるようご協力をお願いいたします。

確かな学力

○教員の協働による積極的な授業改善

(アンケート結果:よくできた学校+少してきた学校=90.9%)

〈気付いた点〉各校において「主体的・対話的で深い学び」を実現している児童生徒の姿を具体的に設定し、共通理解の上で研修を進めていただきました。また、授業参観・検討会では、参観する視点、協議する視点の明確化や形態の工夫など、先生方が主体的に参画し、協働して授業改善について考えることができる研修体制を工夫していただきました。今後も、検討会で出された成果や課題を生かすとともに、先進校・実践校等の取組なども取り入れながら、継続して授業改善を進めていただくようお願いします。



○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の充実

(アンケート結果:よくできた学校+少してきた学校=77.3%)

〈気付いた点〉多くの学校で、児童生徒が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるよう、単元の課題、めあてを意識した授業を実践していただきました。今後は発問や支援を工夫し、児童生徒が各教科等における「見方・考え方」を働かせて、活動したり思考したりして、深い学びにつながる授業実践をお願いします。また、ICTを活用し、共同編集したり、多様な意見を共有しつつ合意形成を図ったりするなどの実践も多く見られました。今年度の実践を生かし、「主体的・対話的で深い学び」に結び付くICT活用の工夫をお願いします。

豊かな心

○生徒指導の三つの機能を生かした日常的な指導・支援の充実

(アンケート結果:よくできた学校+少してきた学校=100%)

〈気付いた点〉いじめや不登校などの未然防止に向けて、学校生活全体において生徒指導の三つの機能を生かした「毎日登校したい」と思える魅力ある学級・学校づくりをお願いしてきました。学期末に全教職員で自身の学級経営や教科経営等を三つの機能の視点から振り返り、次学期へ生かそうとしている学校もありました。今後も児童生徒のわずかな変化やつぶやきを見逃さず、一人一人に寄り添った日常的な指導・支援のより一層の充実をお願いします。

生徒指導の三つの機能とは？

- 自己存在感
- 共感的な人間関係
- 自己決定



○いじめ・不登校の早期発見・早期対応に向けた組織的な支援体制の充実

(アンケート結果:よくできた学校+少してきた学校=95.5%)

〈気付いた点〉いじめの対応については、組織として法に基づく正確な認知及び適切な対応をお願いしてきました。いじめの認知件数が多い学校については、教職員の目が行き届いていることの証であると考えられます。今後も積極的に認知することで、些細ないじめも見逃すことのないように、担任だけでなく組織的な対応をお願いします。

不登校傾向児童生徒への対応については、組織的な支援体制の充実と本人や保護者に寄り添った支援をお願いしてきました。本人の学校復帰や社会的自立に向けての長期的・短期的な視点での目標と手立て、支援の方針と役割分担を明確にして支援にあたっている学校、教職員間だけでなく必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、その他関係機関と情報共有しながら支援にあたっている学校がありました。今後も引き続き、児童生徒や保護者の実情に合わせた寄り添った支援をお願いします。



健やかな体

○生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るための資質・能力の育成に向けた指導の充実

(アンケート結果:よくできた学校+少してきた学校=95.5%)

〈気付いた点〉「新しい生活様式」を踏まえて各種計画を見直し、各学校の実態に応じた学校保健活動を実践していただきました。歯科保健指導や食に関する指導など、マスクをはずして行う指導は、教材を持ち帰らせて家族と行う方法へと切り替えたり、学校保健委員会をオンライン形式で開催したりするなどの工夫によって、これまで以上に家庭と連携しながら望ましい生活習慣の定着に向けた指導を継続していただいています。

今後は、吾妻郡の課題である「肥満の予防・改善対策」及び「がん教育の推進」等に重点をおき、その取組を通して、全ての児童生徒が生涯を通じた健康に関する意識を高められるような指導の充実をお願いします。

○児童生徒の危険予測・危機回避能力の育成に向けた安全教育の充実

(アンケート結果:よくできた学校+少しできた学校=95.5%)

〈気付いた点〉 感染症予防対策や防災に関する内容を追加するなど、各校で危機管理マニュアルの見直しが実施され、職員研修や安全教育の充実に向けた取組を継続していただいています。複数の職員による安全点検の他に、定期的に児童生徒に「学校・通学路の安全アンケート」を実施して危険な状況等を早期に把握するなど、職員及び児童生徒の危機意識を高める工夫をしている学校も見られました。

今後は、予告なしの避難訓練や具体的な場面を設定した防犯教室を実施するなど、より実践的な取組を行い、児童生徒が自分の命を守るための主体的な行動ができるような安全教育の充実をお願いします。

**幼児教育**○伝え合うことよさや楽しさを味わわせる環境の構成や援助の工夫

(アンケート結果:よくできた園+少しできた園=100%)

〈気付いた点〉 計画訪問では、遊びが広がるような環境の構成や援助の工夫の中で、幼児同士が友達の話をよく聞き、言葉でのやりとりを行いながら、遊びを発展させていく場面が見られました。また、振り返り活動の中で、友達の頑張りを認め合う姿も見られました。こうした幼児の姿の背景には、先生方が幼児の言葉を丁寧に聞くことで、話を聞いてもらえてよかった、言葉でのやりとりが楽しかったと思えるような体験がたくさんあったからだと考えます。今後も引き続き、伝え合うことよさや楽しさを味わわせる環境の構成や援助の工夫をお願いします。

○話し合いの視点が焦点化され、全員の気付きが共有される保育カンファレンスの工夫

(アンケート結果:よくできた園+少しできた園=92.3%)

〈気付いた点〉 園内研修の充実に向けて、今年も保育カンファレンスの工夫を行っていただきました。計画訪問では、温かい雰囲気の中で、協議内容の視点を明記した模造紙をテーブルに置き、先生方が自由に考えを伝え合い、気付きを共有している様子が見られました。また、写真や映像、ホワイトボード、保育ドキュメンテーションの手法を活用し、幼児の内面を理解したり、考えを可視化したりする工夫も見られました。今後も保育実践の検証に効果的で幼児理解を深められる保育カンファレンスの工夫をお願いします。

特別支援教育○障害のある子供の特性の理解と、必要且つ適切な指導・支援の工夫

(アンケート結果:よくできた学校+少しできた学校=100%)

〈気付いた点〉 今年度は障害のある子供に関わりのある先生方へ、障害特性の理解と適切な指導の工夫についてお願いしてきました。特に特別支援学級や通級指導教室では、具体的な目標を設定した自立活動や生活単元学習を実施していただきました。自立活動の指導については、子供たちの困り感に寄り添った、効果的な指導内容の工夫を引き続きお願いします。

○全職員による指導・支援方針の共有 (アンケート結果:よくできた学校+少しできた学校=100%)

〈気付いた点〉 今年度は特別支援教育研修会等において配信した研修動画を、校内研修で活用するなど、特別支援教育について積極的に研修していただいた学校も多くありました。また、専門相談員を交えたケース会議や保護者との支援方針の共有など、困り感のある子供に関わる人たちがチームでその子を支えている様子も見られました。今後も特別支援教育に対する理解促進と障害のある児童生徒への組織的な指導・支援の充実をお願いします。

社会総掛かりでの教育を実現するためのこれからの学校 【生涯学習係】

近年、急激な社会変化により、学校を取り巻く課題がますます複雑化、多様化しています。不登校児童生徒の増加、いじめや問題行動の増加、特別な配慮を必要とする児童生徒の増加などにより、教員の役割が拡大し、業務負担が増加するといった課題を抱えています。これらの課題を解決するには、**社会総掛かりでの教育の実現**が不可欠です。

社会総掛かりでの教育を実現する上で、学校は「開かれた学校」から更に一步踏み出し、【地域でどのような子供を育てるのか】【何を実現していくのか】という目標やビジョンを学校と地域が共有し、地域と一体となって子供たちを育む「**地域とともにある学校**」への転換が重要となります。

学校と地域の連携は、これまでも「地域に開かれた信頼される学校づくり」「地域全体で学校を支援する体制の構築」といった観点から、教育改革の柱として推進されてきました。

学習指導要領総則では「学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、**家庭や地域社会との連携及び協働を深めること**。また、高齢者や異年齢の子供など、地域における世代を超えた交流の機会を設けること」とされています。



文部科学省資料
コミュニティ・スクール2018 ～地域とともにある学校づくりを目指して～

【学校と地域との間での目標共有】

学校と地域が一体となって子供を育てていくためには、まず、学校と地域の人々が地域の子供たちの実態について認識を共有し、地域でどのような子供を育てるのか、何を実現していくのかという目標を共有することが必要です。

地域とともにある学校づくりに有効なツールが、「**コミュニティ・スクール**」であり、文部科学省は、2022年度までに全ての公立学校において導入を目指しています。

「地域とともにある学校」とは

- ◎保護者・地域・学校が「**学校運営の基本方針**」を共有している学校
- ◎保護者・地域・学校で「**社会に開かれた教育課程**」を実現している学校
- ◎保護者・地域・学校が**一体となり「地域総掛かり」**で子供の成長を支える体制のある学校

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度を導入する学校)とは…

コミュニティ・スクール(CS)とは、「学校運営協議会」が設置されている学校のことを言います。

「学校運営協議会」とは、教育委員会に任命(校長の意見を反映)された委員が、学校運営とそのために必要な支援について熟議(熟慮と議論)する合議制の機関です。

校長は委員とともに学校運営に取り組むことで「**地域とともにある学校**」の実現が図られ、様々な学校課題の解決の足がかりとなることを期待されています。管内でもCSの導入に向けての取組が進んでいます。

